

■(橘)加藤千蔭 国学者、書家。〈寛政の改革〉閉門を契機に、書の“千蔭流”創始、国学研究も深めて江戸派重鎮に。

かとうちかげ

昆陽蕃諸考・1735= 江戸で、_幕臣で国学者の加藤枝直の三男に生まれる。

2人の兄は夭折、後嗣となった。

幼い頃より才能に恵まれ、

石田梅岩没・1744= 9歳：_賀茂真淵から入門を許され、歌学・国学を学んだ。

徳川吉宗隠居1745=10歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1750=15歳：町奉行組与力勤方見習となり、

徳川吉宗没・1751=16歳：帳面改方となった。歌集「花鳥風月」(別名「萩の芽ばえ」)に、この年までの4年間の詠草を収載している。

薩摩藩工事・1753=18歳：

一方、これ以前から画道にも志し、

大岡忠光没・1760=25歳：刊「漢画指要」や、

・ ・ ・ ・ ・ 1762=27歳：刊「寒葉斎画譜」などを編集した。これは建部綾足に学んだことによるものとされる。

・ ・ ・ ・ ・ 1763=28歳：父加藤枝直が職を辞した後、吟味方助役となり、

加賀千代句集1764=29歳：吟味役与力となった。

・ ・ ・ ・ ・ 1769=34歳：_師賀茂真淵が没した後は、同門の村田春海と交りを深め、江戸歌壇でその名を高くした。

御蔭参流行・1771=36歳：

田沼意次老中1772=37歳：

また、この間は田沼意次の権勢時代にあたり、千蔭もその権勢時代に活躍したため、これが後年になって、松平定信の寛政の改革に指弾される原因となった。

・ ・ ・ ・ ・ 1780=45歳：

田沼意次失脚1786=51歳：田沼意次が失脚し、

寛政改革始・1787=52歳：_松平定信が老中となって寛政の改革を始めるや、娘の婚礼の奢侈を咎められ、「加藤千蔭日記」終。

・ ・ ・ ・ ・ 1788=53歳：病と称して官を辞したが、

初の横綱・1789=54歳：50石減俸に加えて*百日の閉門に処せられた。しかしこの閑暇を得て、書道を滝本松花堂に師事し能書家としても大成し“千蔭流”なる一派を立て、「山居帖」などを刊行した。また家学でもある国学の研究に努め、

異学の禁・1790=55歳：_「万葉集略解」を起筆し、

ヲクスマン来日・1792=57歳：「ゆきかひふり書」、

松平定信引退1793=58歳：

古事記伝・1798=63歳：

伊能測量始・1800=65歳：*「万葉集略解」30巻を完成、万葉学の発展に大きく寄与し江戸派国学の重鎮と目された。このように辞官後の千蔭の著述活動は多岐にわたっているが、著述の中には、

本居宣長没・1801=66歳：刊「大歌所御歌」、

膝栗毛始・1802=67歳：刊「筆のさか」など、_村田春海・香川景樹の歌評書も含まれている。

ツツ船狼藉・1807=72歳：

フェートン号事件1808=73歳：_没した。

その他「うけらが花」「橘千蔭翁家集」「橘千蔭書簡集」「筆のさか」など多数。